

TOPICS “女性とスポーツ” 各紙掲載記事より

今号から女性(少女から老女まで)とスポーツ(見るスポーツ、やるスポーツ)、健康(からだ、こころ)の問題について各新聞で取り上げられたニュースや話題をご紹介します。

◇ ●5/11(日経夕刊) リングに夢追う普通の少女たち 第四次女子プロレスブームといわれる昨今、四団体が女子の試合を行う戦国時代だ。看板レスラー、ブル中野にあげられる新人八人の厳しい練習ぶりを紹介している。この八人は、千二百人の応募者から選ばれた。

●5/19(朝日) チャンプ赤石「もう勘弁」 社会人レスリングで男女対決五輪組とてき「光栄」女子3人 レスリングの第三十九回全日本社会人選手権大会で女子選手三人が男子に交じって団体戦に出場した。女子出場は五年前に次ぎ二度目。前回と同様、対男子戦白星はならなかった。

●5/22(朝日) 将来は柔道の指導者 ソ連から助っ人に来たナタリア・スラワエワさん、ソルフィア・ガリボアさん 道場と合宿所毎日往復 休みなしの稽古に驚き 企業内に女子柔道部を作ったコマツ(小松製作所)が、ソ連で三位の実力を持つ二選手を招き社員として採用した。

●5/25(報知) サッカー日本リーグ女子に来季から初の中国人選手 プリマハムに入団 期待の2人 季秀穂、董樹紅 アジアNO1

の中国から、始めて日本リーグに登場する二人を紹介。ともにトッププレイヤーで、季選手はアジア大会メダルチームのキャプテンだ。

●5/27(朝日) 「国際サイクルロードレース最終戦」堀2位、日本勢最高 女子 世界との差を縮めた積極性 堀弘乃選手は日本勢最高の成績をあげた。ちなみに男子は七位が最高。

●6/2(読売) 水球女子ニッポン国際大会初出場 欧米上位と実力互角8か国中の5位 狙う 米で25日からFINAカップ 日本女子水球がナショナルチームとして初めて国際大会に出場する。遠征費をアルバイトで稼いでいた選手たちにとって、日本水連の派遣となった今回はお金の心配もない。

●6/7(報知) 女子サッカーW杯決めた女は強いよ 男子もガンバってね 第一回ワールドカップ出場のため権をかけたアジア女子選手権準決勝で、日本女子は強敵・台湾をPK戦の末、5-4で破り出場を決める。

●6/10(産経夕刊) 女子アメフトチーム続々誕生「世界初」合同練習「男のスポーツ」なんて言わせない 東京で女子アメフト初の合同練習。今年中に試合ができるように「目標どか」。

●6/16(朝日) プロめざし打て打て!日本ではこだけ 女子ゴルフ学校 71人「岡本」が夢

日本で唯一の女子ゴルフ専門学校「学校法人トイカイ学園・日本女子ゴルフ学校」を紹介。創立五年目。全国各地から集まった71人が寮で共同生活を送りながら、第二の岡本綾子を目指している。

●6/20(読売夕刊) プロボクシング門戸開放 初の女性審判員あすジャッジデビュー 浜松に住む二十六歳の内山佳寿子さんは三年前、ボクシングジムの練習生になったが、ボクサーとして頑張っても評価されないことに不満を抱き、「もっとボクシングを勉強したい」と、審判員の道を選んだ。「ジャッジの経験を積んでいざレフェリーとして活躍したい」と、夢はふくらんでいる。

●6/21(読売) 女性もプロ野球に入れる? 協約特別委が一部条項改正へ プロ野球の協約特別委員会は、性別や身体で差別する条項があるのは好ましくないとして①医学上男子でないもの②不適当な身体または形態をもつもの③の二項を削除することを決めた。

●7/3(朝日夕刊) 少女横綱に「待った」 わんぱく相撲 国技館の土俵上がれず 東京・国技館で開かれる「わんぱく相撲全国大会」に、予選で優勝した小学五年生の少女が、出場を断られた。主催者は「全国大会は男子が対象」としており、国技館の土俵は「女人禁制」だからという。